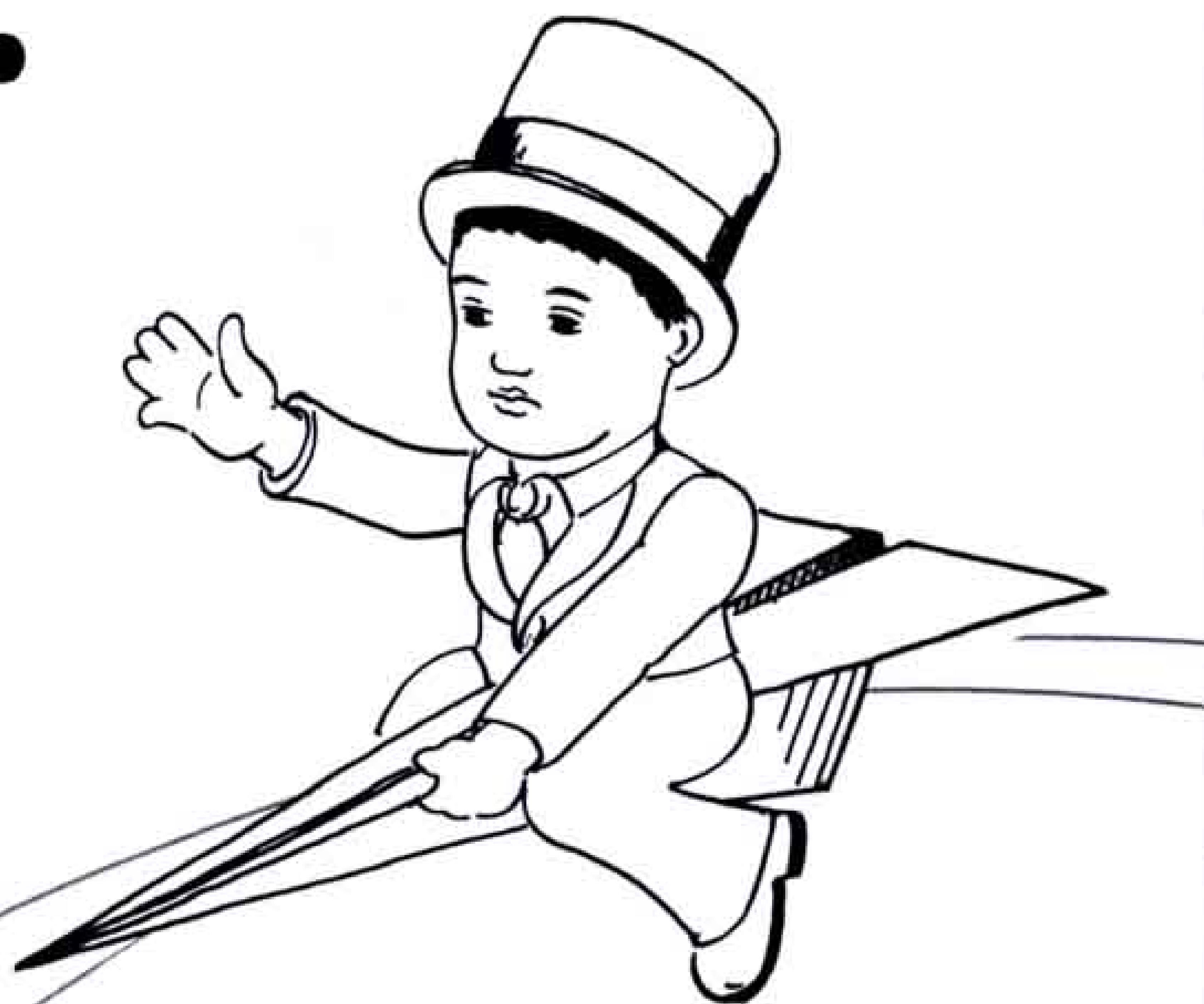


紙の街 0年



はじめまして、僕、

ブラック・クロ-

ソンです

はじめまして、僕はブラック・クロソンと申します。実は、僕は製紙機械のマスケット人形でして、その製紙機械のメーカーがブラック・クロソンなんです。

海を渡って富士へやって来たのが明治二十一年（一八八八年）。それからずっと紙を通して富士の街と人を見てきました。

ことし、富士市では近代製紙百年を記念して、さまざまなイベントが行われています。そこで僕もこの百年を皆さんと一緒に振り返ってみたいと思います。どうぞおつき合ってください。

聞くところによると、僕が来日した時より、千二百年も以前から日本では紙があったそうです。これは、中国で発明された紙がいち早く日本に伝わり、器用な日本人はみずからの手で国産紙(和紙)をつくり広く普及させたからです。紙の普及は文化を向上させました。『竹取物語』が今日みんなに愛されるのも、まさに紙のおかげです。

かぐや姫だつて
紙がなければ

紙は昔から貴重品として贈り物に使われていたようです。江戸時代に入ってから、全国各地で生産が盛んとなり、華やかな江戸の庶民文化を支えてきました。中でも三極みつぎを原料とした「駿河半紙」は全国的に有名で、明治初期には、原田・吉永・須津地区などで盛んに三極が栽培され、富士の製紙業発展の基礎となりました。

ヒット商品
駿河半紙



7月18日 「紙フォーラム100」

紙の国100祭 イベント



7月19日 紙リンピック
(総合運動公園陸上競技場)



7月19日 紙飛行機大会(富士川緑地)

ブラック・クロソン少年の見た

10

富士の紙発祥の地『今泉の蒲』

僕が日本にきたところ、今泉の田宿川の水源周辺（通称ガマ）に、手すき和紙工場がつくられました。工場では職工を雇い生産ラインの機械化を図り、生産性の向上に力を入れました。また、田宿川沿いに手すき和紙伝習所が設けられ、技術者の養成が行われました。その後、製紙に欠かすことのできない水が豊富にわき出ることの今泉ガマを中心に、多くの手すき和紙工場が建てられ、また三楹の生産も順調に増加し、価格の安定した和紙が生産されました。このように今泉のガマは、名実ともに富士市の製紙業発祥の地と言えることができます。

ペーパーロード（紙の道）を知っていますか？

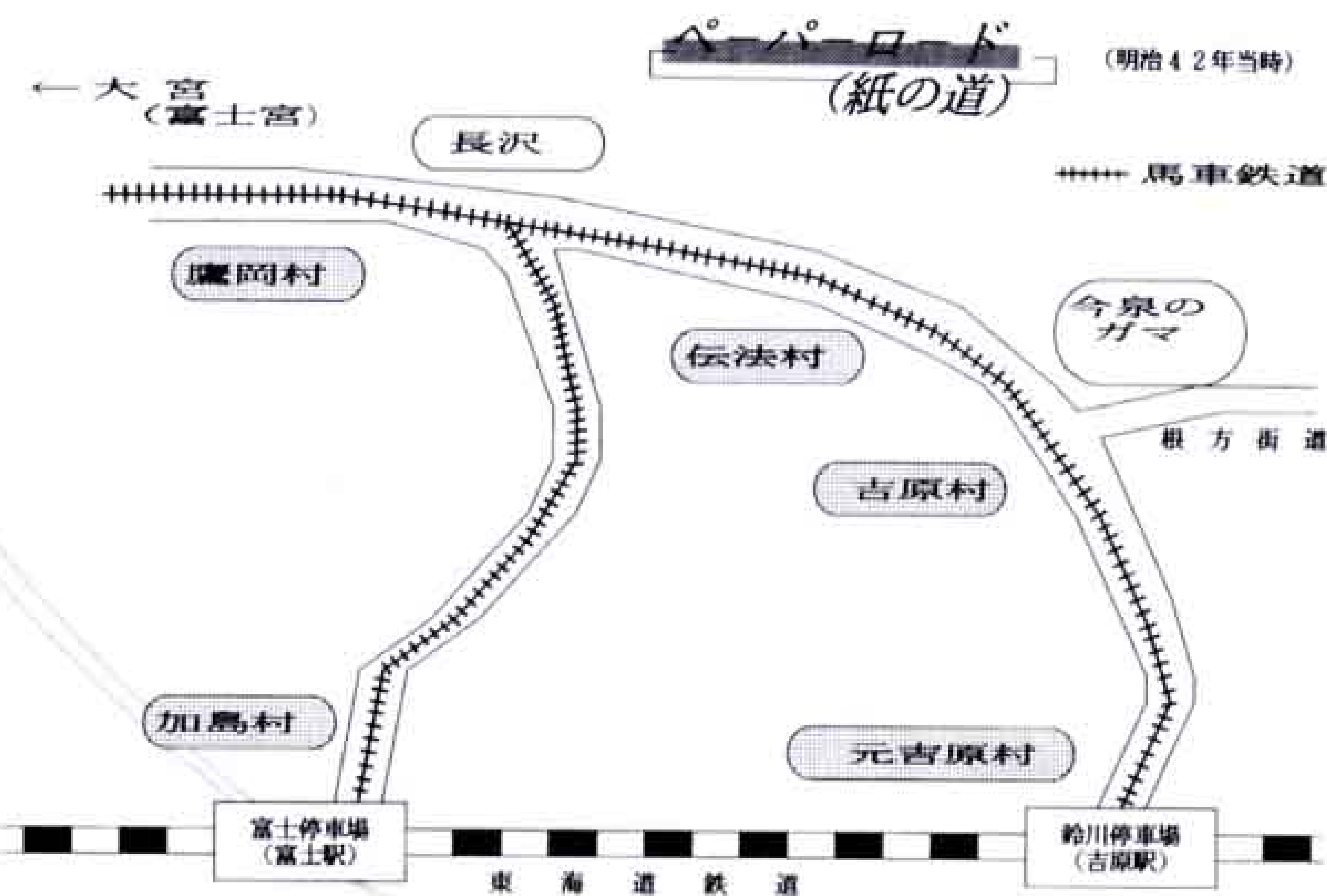
さて、米国からやってきた僕と製紙機械は、入山瀬村に新しく建てられた、富士では最初の洋紙専門の製紙工場（富士製紙会社）に運ばれました。

明治二十三年（一八九〇）地元の人々の協力によって操業を開始したこの工場は、入山瀬村の発展に尽くしただけでなく、東海道鉄道が敷かれると、町と資本金を出し合い、吉原駅から大宮（富士宮）まで馬車鉄道を通しました。

また明治四十二年（一九〇九）加島村に富士駅ができると、ここから鷹岡村長沢まで馬車軌道を敷いて連結しました。これによって、資材や人の運搬が楽になり、街は



活気づき、やがて現在の富士市のほぼ全域に製紙会社が建設され、「紙の街富士」の全体像ができ上がりました。そこで僕はこの二本の道を『ペーパーロード（紙の道）』と呼んでいるのです。



△現在の長沢付近。左が吉原方面、右が富士方面へ

紙の街に紙のない時代があった

大正時代に入ると、第一次世界大戦や大正九年（一九二〇）の世界大恐慌、関東大震災など、大きな社会不安に襲われました。でも「紙の街」から紙が消えてなくなることはありませんでした。

しかし、それが現実には起こったのです。第二次世界大戦の勃発です。当時の様子を名倉英雄さん（石坂・当時大昭和製紙勤務）が語ってくれました。



製紙工場なのに戦時中は戦闘機の部品をつくっていたんだ

昭和十五・六年になると、軍部による統制経済のため、紙の原料や薬品、燃料、機械の部品などが不足し、また従業員も召集や徴用で減ってしまい、紙の生産は軍用品に限られてしまった。それだけならまだしも、戦闘機の部品や木製飛行機の素材をつくる軍需工場になってしまった。つくられた飛行機は特攻機として使われたそうだ。米軍機の機銃掃射も受けた。平和産業の製紙工場が兵器をつくるなんて、ばかげた時代だったね。

環境への思いやりがてすごく大切なこと

戦後の混乱から立ち直り、順調に発展してきた製紙業界に新たな問題が起きました。地下水の塩水化と田子の浦港のヘドロに代表される公害問題です。その後、各企業で排水対策や大気汚染防止の設備を設け、今では日本で最も厳しい公害基準をクリア。僕たちは環境への思いやりを学びました。

紙の未来は地球の未来

水と太陽と空気と土、そこから生まれる紙。紙は自然と共に暮らす習性を身につけている日本人にぴったりの素材だと僕は思います。

美しい環境を次代に

富士市の近代製紙は、富士山の美しい水と恵まれた自然環境、そして、多くの人々によって支えられてきたと思います。

百年経った今、製紙業界はこれから何をすべきなのか真剣に考えなければなりません。特に大切なのは、この地域の未来を受け継ぐ子供たちに、美しい自然や地球環境を残していかなければならないということです。

そのために、今までの経験を踏まえ、今何ができるのか検討し具体的な活動に結びつけてい



(社)静岡県紙業協会 専務理事 松坂博文 さん

今まで千年以上もつき合ってきた人と紙、これからどんな関係を築き、どんな街をつくっていったらいいのでしょうか。



△ペーパーズラッジを原料とした歩道(富士体育館前)

きます。それが、地域に愛され地域とともに伸びていく産業だと確信するからです。

資源の再利用を

強力に進めていきます

森林資源の保護は、具体的には再生紙を利用することで大幅に改善されます。富士市のトイレットペーパー生産量は全国の約三七%。すべて再生紙です。

トイレットペーパーは、使用後水に流してしまいうので再生できません。その意味でも、皆さんが再生紙ものを使ってくれることが自然保護に直結します。

また製紙かす(ペーパーズラッジ)の再生処理は環境を守るための重要な課題です。

ペーパーズラッジの再利用は技術革新が進み、実用化の段階に入っています。例えば歩道用ブロックやビルの外壁塗料の原料、植成材料、内壁材などその用途は拡大しています。

企業と市民とが共有

できる情報拠点を

市内の製紙工場では、多くの種類の紙が生産され全国に流通していますが、市民と紙との具体的ななかかわりはどうも希薄だと感じます。例えば、富士市を紹介する場合「富士山のある街」と言いますが、もし、富士山がなかったら私たちは、何をもちて富士市とするのでしょうか。それは『紙』しかありません。

「コミュニケーションF U J I会議」は、紙を通して富士の街や産業、文化、教育、人、環境などについて、市民サイドで話し合い、研究・提言などの活動を行っています。

近代製紙百年の節目の今、今後百年を考えた広い視野で、紙と市民とのいい関係を探っていくことが必要です。それには紙の持つ広大な可能性を市民がわかりやすく理解できる拠点が必要ですね。そこには、企業と市民が共有できる先端技術の情報やソフトがあり、市民が紙の街に住む誇りを増幅させるような施設であって欲しい。また外へ向けての発信や受信のできる機能も大切だと思います。

コミュニケーションF U J I会議

問い合わせ ☎62-1020(高木方)



△8月1日、紙の未来をテーマに行われた12時間朝まで討論会

紙の国100祭

富士市の近代製紙誕生百年を記念して、明日の製紙産業と自然環境の調和を目指す「紙の国100祭」のイベントが市内各地で行われています。七月には「紙フォーラム」、「紙リンピック」などが行われ、また、十月には「紙トピア100」などを予定しています。あなたも参加しませんか。

まだまだ

イベント盛りだくさん

紙トピア100

(十月三・四日、中央公園)

- ・環境平和コンサート
 - ・紙と遊ぶコーナー
 - ・手すき和紙の実演
 - ・紙のウォークラリーほか
- 紙の道100
- ・紙の歴史出版事業

紙と未来21創生実行委員会

☎35-5061

問い合わせ



駆け足で紙の百年を見てきました。気がつけば僕も百歳。これからも僕は大好きなこの街に住み続けます。皆さん!僕を見つけたら、あなたと紙と街のいい関係を、ちよつと考えてみてくださいね。